

Citation: Bradt J, Dileo C. Music for stress and anxiety reduction in coronary heart disease patients. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 2. Art. No.: CD006577. DOI: 10.1002/14651858.CD006577.pub2.
CRG名: Heart

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 10 October 2008
Clib issue No.; N/U: 2009 issue 2, New

背景: 冠動脈疾患(CHD)のある人は重度の不快なストレスをしばしば受けており、そのため合併症リスクが増大している。内科患者において不安および不快なストレスを軽減し、生理機能を改善させるために音楽介入が使用されているが、CHD患者に対するその有効性を評価する必要がある。

目的: CHD患者を対象に心理学的および生理学的反応に及ぼす音楽介入と標準的ケアの併用効果を標準的ケア単独と比較検討する。

検索戦略: Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)、MEDLINE、CINAHL、EMBASE、PSYCINFO、LILACS、Science Citation Index、www.musictherapyworld.net、CAIRSS for Music、Proquest Digital Dissertations、ClinicalTrials.gov、Current Controlled Trials、National Research Registerを検索した(すべて2008年5月まで)。音楽療法の関連雑誌および参考文献リストをハンドサーチし、未発表の原稿を同定するために関連性のある専門家に問い合わせた。言語に制約は設けなかった。

選択基準: CHDのある人を対象に音楽介入と標準的ケアの併用を標準的ケア単独と比較しているすべてのランダム化比較試験を含めた。

データ収集と分析: 2名のレビューアが独立にデータを抽出し、方法論の質を評価した。必要に応じて、試験研究者に問い合わせて情報を追加した。同一尺度で評価されたアウトカムについては重み付け平均差、異なる尺度で測定されたアウトカムについては標準化平均差を用いて結果を示す。検査後のスコアを用いた。ベースラインで有意差がある場合は、変更スコア(change score)を用いた。

主な結果: 23件の試験(参加者1,461例)を含めた。使用されていた主な介入は、音楽鑑賞であった。研究のうち21件には、訓練を積んだ音楽療法士が関与していなかった。

結果から、音楽鑑賞にはCHD患者の不安に対して中等度の効果があることが示されたが、研究全体で結果に一貫性はなかった。本レビューから、心理学的な不快なストレスの軽減を示す強固なエビデンスは見出せなかった。結果から、音楽鑑賞は心拍数および呼吸数を減少させ、血圧を低下させることが示された。2回以上の音楽活動を含んでいた研究は、小規模であるが一貫性のある疼痛軽減効果につながった。

末梢皮膚温についての強固なエビデンスは認められなかった。ホルモン値を考慮していた研究はなかった。1件の研究のみで生活の質をアウトカム変数として考慮していた。

レビューアの結論: 音楽鑑賞は、CHDのある人の血圧、心拍数、呼吸数、不安、疼痛に対して有益な効果があると思われる。しかし、エビデンスの質は強固ではなく、臨床的意義は不明である。

大部分の研究は、あらかじめ録音されていた音楽の鑑賞効果を検討していた。訓練を積んだ音楽療法士によって提供される音楽効果に関する多くの研究が必要である。

(監訳 澤村 匡史)
翻訳公開日: 09年9月15日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。